

2022年8月2日

オンライン型研修

異質な他者に実践を語ることで、自らの「教育観」を
自覚し捉えていきました。

経験をくぐった自分の言葉で改めて語ることが
自分自身の無自覚だった実践知を言葉にしていきます。

私たち実践者は、日々の実践やこれまでの取り組みを通して自らの「教育観」や「こども観」を生成していきます。これからの新しい時代の中で、その「教育観」や「こども観」を再構成し、専門職としての質を向上していくためには、日々の実践やこれまでの取り組みの意味を自覚し捉えていくことが必要となります。

本研修では、日々の実践やこれまでの取り組みや、思い、考えていることについて普段語ることのない他者にじっくりと語っていただく中で、省察をします。

自らの実践や取り組みを捉え直していくプロセスを、共にたどっていくことで、「情報交換」ではなく、学習者として互いに学び合い「新たな意味を生成」する研修にしましょう！

参加者

全国の幼稚園・こども園教諭及び幼児教育関係者 6名
(奈良県/滋賀県/富山県/青森県/宮城県)

本園 研究部教諭 4名 + 教諭2名も参加

研修デザイン

2022年度 奈良女子大学附属幼稚園 オンライン型研修「対話の種」 <研修前>

研修日： 月 日

名前：
所属：
担当：
参加日： 月 日
経験年数： 年

<自己紹介> 所属されている園や組織について、経歴や長所や短所、得意なことなど

<オンライン型研修への参加動機>

<これまでの保育実践や現在の取り組み> 保育実践や子どもの姿を振り返って思うこと、取り組まれている実践の具体や、その実践において思い寄せておられることなど

9:45～ 接続開始

10:00～ オンライン型研修 趣旨説明
「対話」をするということについて

10:15～ グループに分かれての「対話」
— 自己紹介—
研修への参加動機
これまでの実践や取り組みについて

12:30 自己紹介から「実践をめぐる対話」へ
終了

参加者のふりかえりより（抜粋）

園の規模や立場が違う先生方と、対話することで、改めて自分が考えていることを明確にすることができた。
活動の振り返りを行う際に、保育者自身が何をねらって行うのか明確にしていくことを意識して実践していきたい。

幼児が自分のおかれている環境の中でどんなことを学んでいるのかを積極的に意味づけたいと思った。自然の中で遊ぶこと、設定された環境の中で遊ぶこと、どちらにもそれぞれの学びの姿がある。それを私が感じ取り、意味づけられる多様な価値観を自分の中にもつ必要があると感じた。

その子がどう育っていくのか。その子の育ちを支えていく保育。について考える研修となった。また、私にはこう見えたが子どもにとってはどう見えているのか。について今後の保育をしながら意識していきたいところであった。尊重の意味について改めて考えるきっかけとなった。ひとりひとりの育ちを見ていく中でその子にはどう見えているのかという点に注意しながら保育を進めていきたいと思った。

「自然の中での保育がいい」という言葉で聞くとしっくりきませんでした。なぜ自然を重要だと捉えるか、という語りを聞くと、語り方が違うだけで私も「自然」を大切にしながら教育しているということに気付いた。また、私は「私がなにもしなくても育っていく子どもたち」に何もできない私はどのようにかわればいいのか、とても悩んでいたが、対話の中で、そもそも私は子どもと大人の関係性の中で子どもは育つから「勝手に育っていく」のではなく「私とのかかわりの中で育ちがみえるようになる」ということを考えていたからこそ「怖さ」を感じ悩んでいたことに気付かされた。

ファシリテーターとして「対話」を進めていくことは、保育を創るプロセスそのものだと感じた。

今、それぞれの実践者が感じていることは何か、そして疑問に感じていることはどこか、それを共に語りながらつかみ、「問い」として投げかけていくことで思考が働く。

保育実践の中で子どもを見つめ、遊びの軸を共に見つけ展開していく。

「研修」は様々な学び方がある。「研修」をデザインし進めていくことは、実践者として子どもに伴走し共に学びをつくる専門性の高まりを支えることになると感じた。